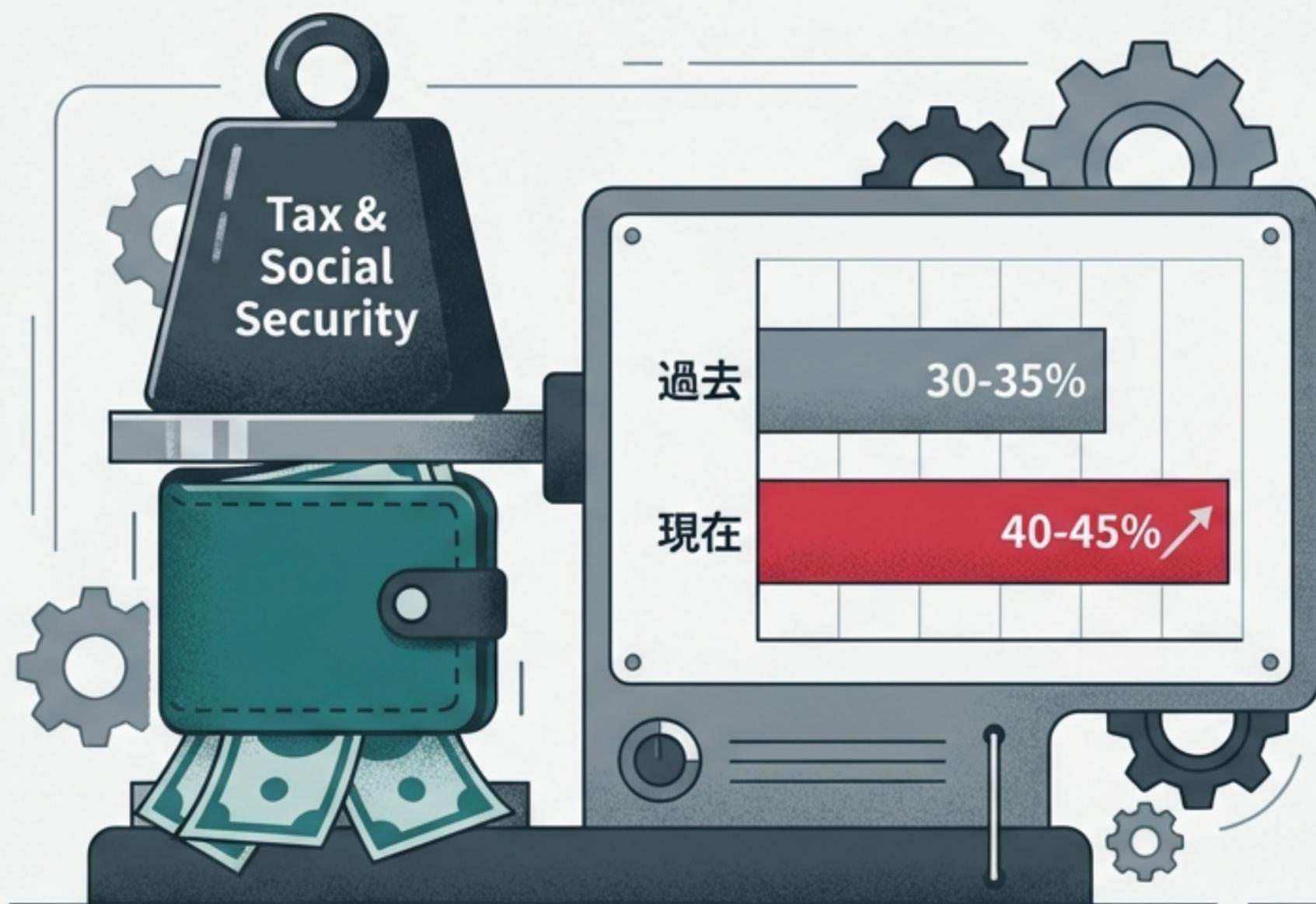


# 医療費議論の罫：リスクは「社会化」すべきか、「個人化」すべきか

なぜ「高齢者負担増」は現役世代の救済にならないのか



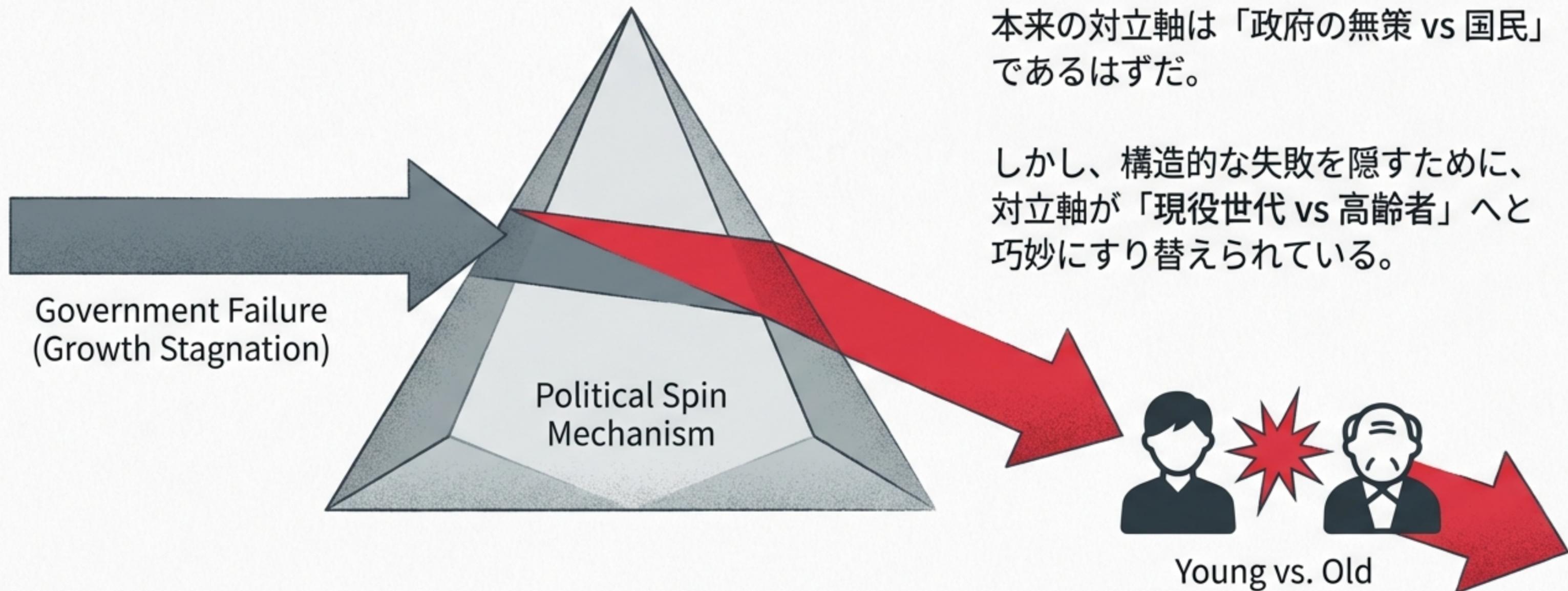
# 現役世代を覆う「痛税感」の正体



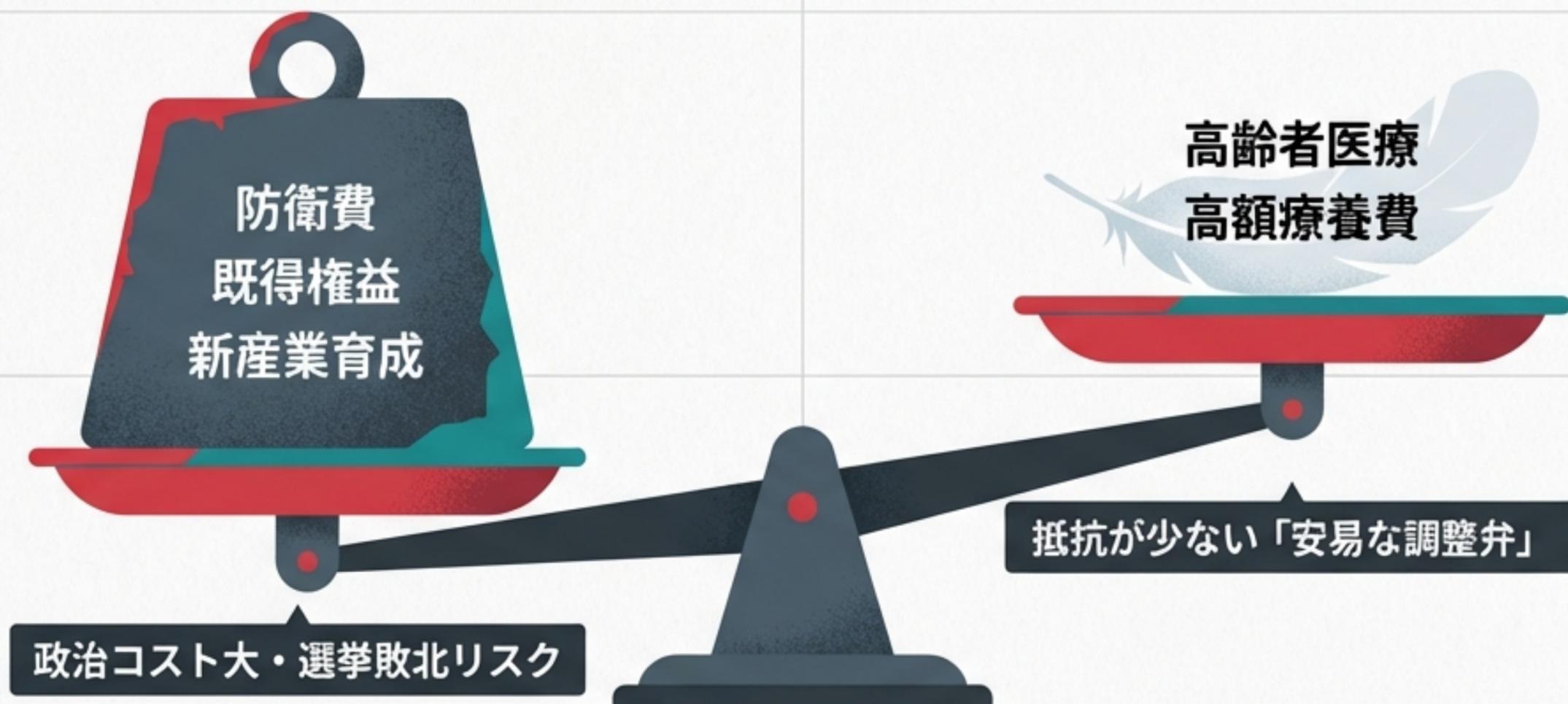
手取りが減り続ける中、政治が提示する「分かりやすい敵」が、高齢者医療と高額療養費である。

「病気の人にもっと払わせれば、あなたの負担は軽くなる」という甘い囁きが、世代間の分断を生んでいる。

# 世代間対立国遅”という「政治的スピン」

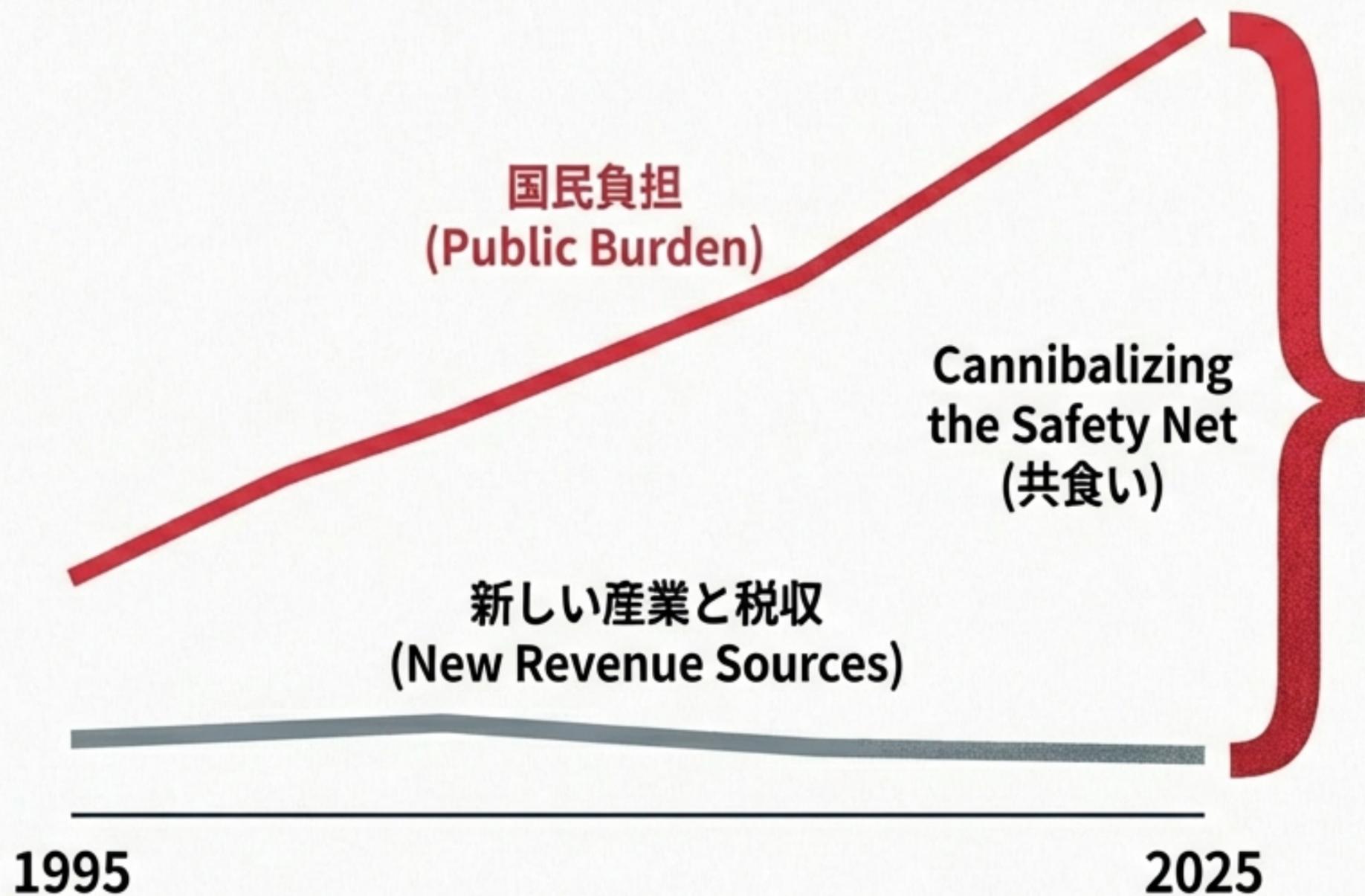


# なぜ「弱者」ばかりが狙われるのか？



防衛費や既得権益の調整は、米国との関係や選挙への影響が大きく、政治にとって「コスト」が高すぎる。結果、最も抵抗力の弱い「病人」と「高齢者」が財政の帳尻合わせに利用される。

# 30年間の「新産業不在」が招いた行き詰まり



痛税感を緩和する唯一の正攻法は、新産業を育てて税収を増やすことだ。

しかし、この30年間で、誰も新産業を発見できていない。

パイが増えないため、既存のパイ（社会保障）を共食いするしかない状況に陥っている。

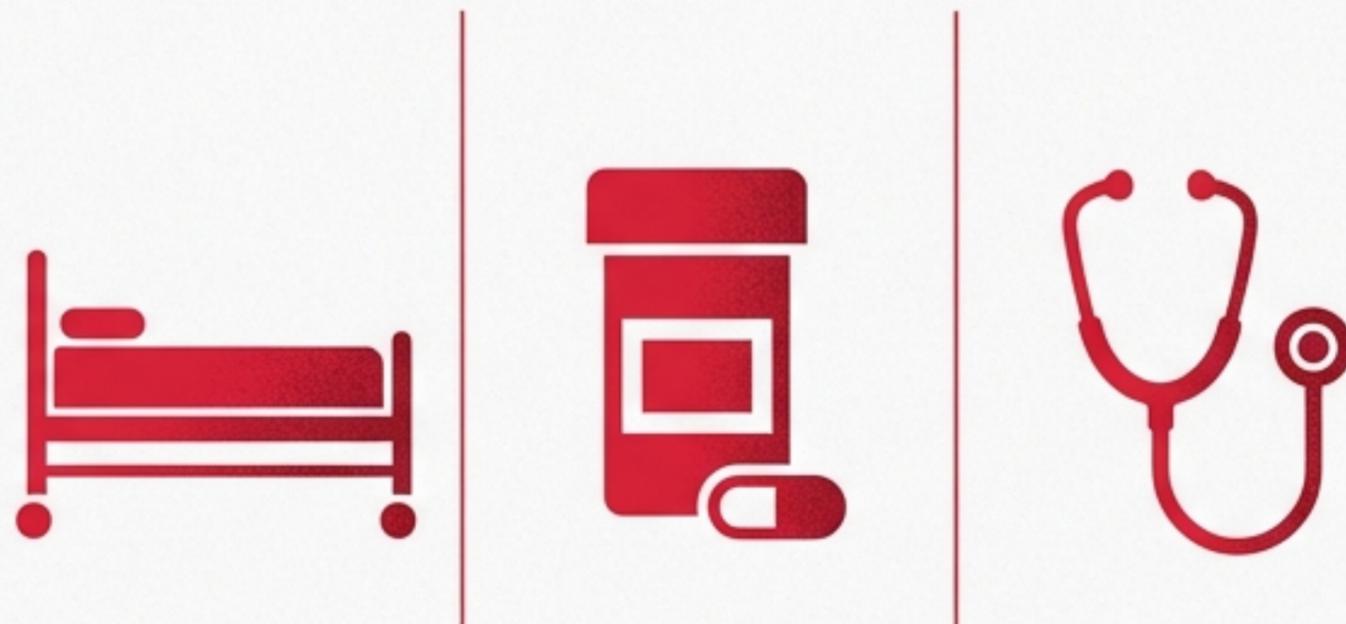
# 「聖域」化される予算と、削られる命

## SANCTUARIES (聖域)



防衛費の大膨張、原発、IT予算。  
これらは「国策」として検証なしに膨らむ。

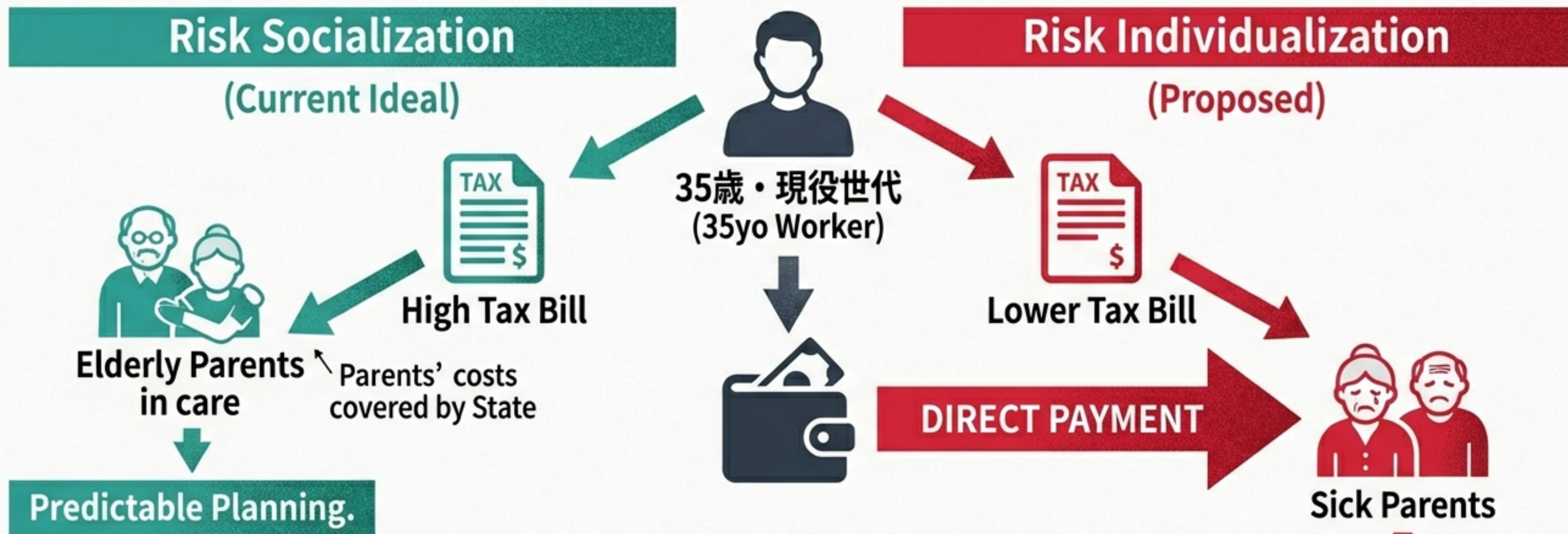
## TARGETS (削減対象)



医療費。1円単位で「無駄」と断罪される。

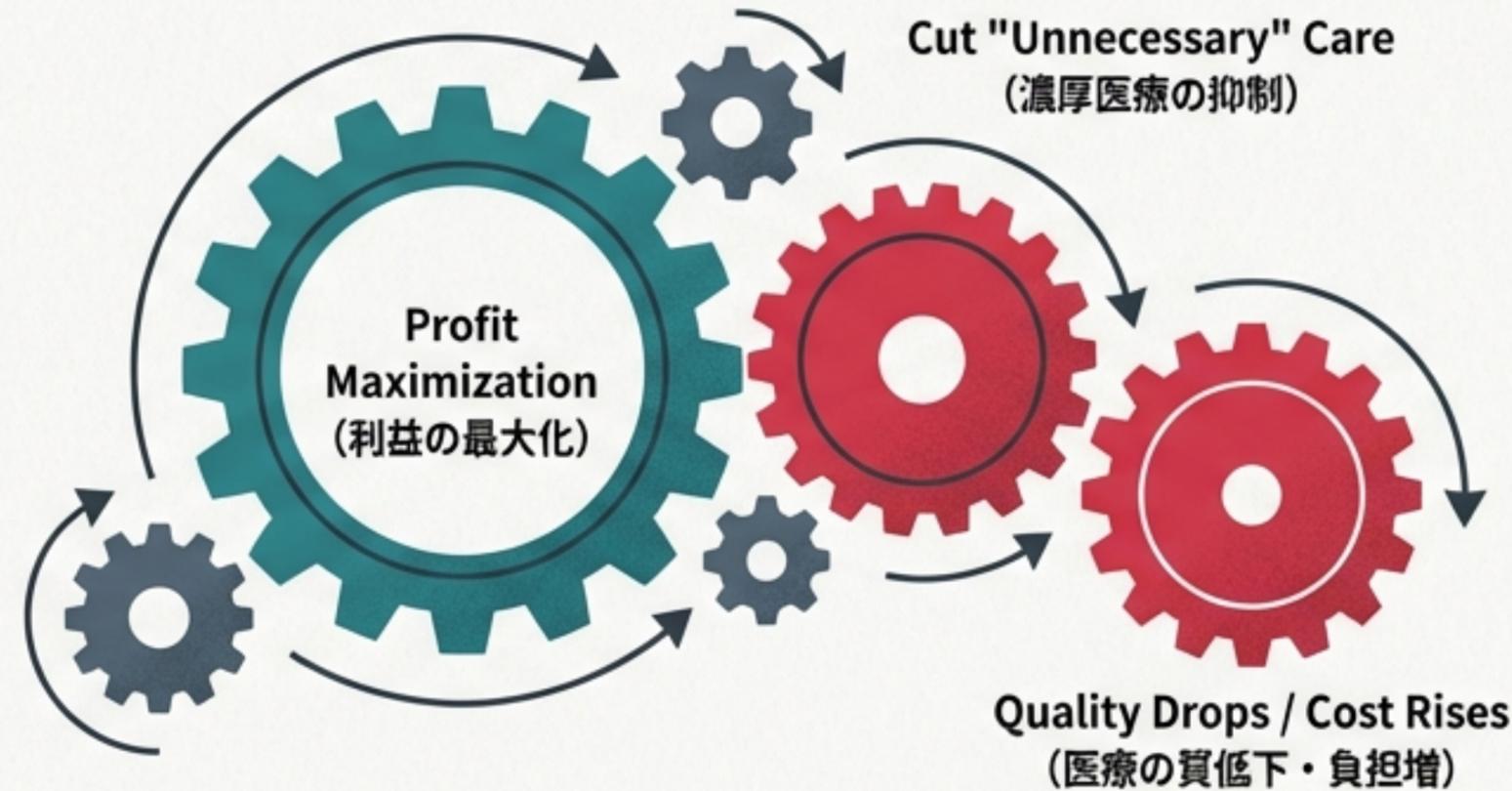
防衛費には「政治コスト」をかけて財源を捻出する一方で、市民の生命線である医療費は「財政の論理」だけで切り捨てられようとしている。

# 「リスクの個人化」は、あなたへの増税である



親や祖父母を見捨てるわけにはいかない。  
税金が安くなっても、親の医療費や介護費を「私的」に負担することになれば、  
トータルの出費はむしろ増え、生活は不安定化する。

# 資本の論理：米国型モデルの罫



Logic of Private Insurance (民間保険・資本の論理)

公的保障を縮小すれば、そこに民間保険が入り込む。

彼らは「無駄」を徹底的に削るが、それはあなたの健康のためではなく、株主の利益のためである。

必要な医療まで「無駄」として切り捨てられるリスクがある。

# 選択の岐路：連帯か、自己責任か

リスクの社会化 (Risk Socialization)	リスクの個人化 (Risk Individualization)
<ul style="list-style-type: none"><li>● Logic: Solidarity (連帯)</li><li>● Concept: We are all future patients.</li><li>● Goal: Prevent poverty caused by illness.</li><li>● Mechanism: Healthy people support the sick.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● Logic: Self-Responsibility (自己責任)</li><li>● Concept: Survival of the fittest.</li><li>● Goal: Reduce tax burden immediately.</li><li>● Outcome: Illness leads directly to economic ruin.</li></ul>

近代国家は、病気による貧困の連鎖を断つために「リスクの社会化」を選んできたはずだ。我々はその英知を捨てるのか？

# 誰が「弱者」になるかは予測できない



「かわいそうな人」を助けるだけではない。

「明日は我が身」であり、「あなたの親」かもしれない。

健康な人もいつ沈むかわからない不確実な世界で、生存権を保障するのが社会の役割である。

# 議論の「マト」を修正せよ

## MANIFESTO CHECKLIST



**Stop the Spin: 「若者 vs 高齢者」の対立煽りを拒絶する。**



**Audit the Sanctuaries: 防衛・原発・IT予算の聖域なき見直し。**



**Define Values: 「誰を切り捨てるか」ではなく「どんな社会を守るか」を問う。**

選挙に勝つために、都会の若者を取り込み、高齢者を切り捨てるポピュリズムに騙されてはいけない。

真の無駄は、医療現場よりも、巨大予算のブラックボックスの中にある。



「誰を切り捨てるか」ではなく、  
「どんな社会を守りたいか」を。

Source Analysis: 品川心療内科自由メモ5 (2026.02.23)